

【学生による ESD 活動支援】

奈良市立平城小学校 野外活動 支援報告書

社会科教育専修 学部 1 回生 栗山裕唯

1. 実施日 令和元年 6 月 19 日 (水)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 後藤旭、太田匠飛、栗山裕唯、小林実里、松村果林、南拓海 (学部生)
谷垣徹 (大学院生)
岡本沙希 (奈良ユネスコ協会青年部)
奈良市立平城小学校第 5 学年児童、引率教員複数名

4. 活動支援内容

令和元年 6 月 19 日 (水)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立平城小学校第 5 学年の野外活動が行われ、本学学生 6 名が野外炊飯、キャンプファイヤーなどの支援、キャンドルロードの設置を行った。

今回の野外活動支援を以下の 2 点で振り返る。第 1 に子どもたちとの交流について、第 2 に子どもたちの安全確保についてである。

第 1 に、子どもたちとの交流についてである。今回の野外活動支援は野外炊飯の片付けからであった。そのうえ、今回の野外活動の方針は児童の主体性を重視するものであったため、私たち学生が司会進行をしたり、一緒に歌を歌ったりするなどの場面はなかった。しかしそういった状況であっても積極的に学生と関わろうとする児童は多く、学生に声をかけるという場面はとても多く見られた。また、今回は後方から眺めていることが多かったため児童ら一人ひとりの動きをよく見ることができた。スタンプに精力的に参加する児童もいれば、そうではない児童もいるのだということが俯瞰的な視点から強く感じられた。さまざまな性格の児童たちが集まる環境を先生方ほどのようにまとめるのか、自分ならばどうまとめていくのかを深く考えさせられた。

第 2 に、子どもたちの安全確保についてだ。キャンプファイヤーの準備は危険な点多々あった。危険な場面でこちらへ寄ってくる児童に対してきちんと「危ない」ということを伝えなければならなかったり、キャンドルロードで火を扱う際に手を近づけないよう注意したり、道路を歩く際に周りに気を配ったりと、安全確保をさまざまな場面でおこなった。特にキャンドルロードについては、多くの児童がろうそくに灯った火について興味を持っている様子であった。手を火に近づけるような危険な行為こそ見られなかったが、警戒心や恐怖心よりも好奇心が勝っている様子が多く見受けられた。故にしっかりと危険性を教えて怪我のないようにしなければならないと思った。この件はあくまで一例であり、多くの場面で児童の安全を担っているのだという責任感を改めて学んだ。

以上 2 点が今回の野外活動支援を通して特に感じたことである。今回の野外活動支援もさまざまな学びを得たうえで無事に終えることができた。通常の野外活動支援に比べて今回は徹底的に補助の色が濃く、それ故じつくりと児童や教育現場の様子を見ることができた。これは 4 年間子どもたちと関わっていくなかでも貴重な経験であったのではないかと考えている。主体性が重視されるこれからの教育において、野外活動支援の在り方についても今一度考えながら、今後の活動にも取り組んでいきたい。



キャンプファイヤーの様子